



地域の農業者の指導を受けながら稲刈りを体験(明野小学校5年生)

—知事からのメッセージ—

あけましておめでとございます。
県民の皆さまには、希望あふれる新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

さて、本県の農業は、農業者の皆さまのたゆまぬ努力と高度な生産技術の確立などにより、全国に誇れる果樹を中心に、水稲、野菜、花き、畜産などの特色ある産地を形成してきました。

しかし、一方では、農業を支えてきた方々の高齢化の進行、耕作放棄地の増加など生産基盤の脆弱化が進行しています。

こうした中、近年、農家の子弟以外の若者や団塊の世代などの新規参入者が就農するケースが増えています。これからは、農業に関心のある方々が、農業に「層の魅力を感じ、職業として農業を選択し、効率的かつ安定的な経営を実現していける仕組みづくりが必要である」と思います。

また、山梨水明を誇る本県農村の持つ景観や文化、歴史など農村固有の資源には、ゆとりや安らぎを感じるとともに、これらの資源への関心も高まっており、農村に住む方や訪れる方々が、このような魅力をさらに享受できる農村づくりも大切です。

このようなことから、県では、「未来につながる はつらつとした山梨農業」を10年後の将来像とした「やまなし農業ルネサンス大綱」を策定し、「担い手が育つ高収益な農業の実現」と「魅力ある活力に満ちた農村の創造」に向けた取り組みを進めていくこととしています。

私たちが生活していく上で欠かすことのできない「食」。これを支えている方々、またこれから支えていくこととする方々に大きな期待を寄せています。

山梨県知事 横内正明

特集
先人たちが築きあげてきた
「山梨の農業」を未来につなぐ
はつらつとした農業を実現するために



本県の農業・農村を取り巻く状況は、生産性の高い農業が展開される一方で、農家数の減少、農業従事者の急速な高齢化、遊休農地の増加などの問題を抱え、地域農業を担う農業者の確保・育成が大きな課題となっています。このような中、県では、「就農支援センター」の開設や「県立農業大学校」の再編整備、魅力ある農業経営体の育成などさまざまな施策を行い、担い手の確保・育成に努めています。

生産性の高い農業と四季を彩る農村の景観

本県では、立地条件を生かし、果樹を中心に、水稲、野菜、花きなどが生産されています。果樹が農業生産額の5割以上を占め、生産量が日本一のブドウ、モモ、スモモをはじめ、オウトウ、カキ、

リンゴ、ウメなど多くの種類が栽培されています。

本県は、四方を山に囲まれているため、農地の約3分の2が中山間地域にあり、あるという不利な条件の中で、生産性

の高い農業が展開され、10アール当たりの農業生産所得は、全国でも常に上位にあり、平成17年度は15万円で全国1位となっています。

また、本県の農村は多彩な景観を織りなし、「桃の花が二面に咲き誇る果樹園」、「傾斜地に広がるぶどう棚」、「周

りの山々を背景に稲穂が実る水田」などの景観は、県民だけでなく訪れた人の心を潤す貴重な財産となっています。

しかし、新規就農者の不足、農家数の減少、農業従事者の高齢化、遊休農地の増加などさまざまな課題も抱えています。

